

ぶどうの木



第275号 2026年 6月号

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2026年5月24日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田3-37-7
TEL: 03-3414-5772
FAX: 03-3414-5778



『新しい言葉』

牧師 広田叔弘

炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

使徒言行録 2章3〜4節

復活した主イエスは四十日間にわたって弟子たちに姿を現します。そして一つの約束を与えました。「エルサレムから離れず、父の約束されたものを待ちなさい。」(言行録1:4)この言葉を残して主は天に上げられます。やがて十日が経ちます。復活の日から五十日目です。弟子たちは約束を信じて祈っていました。すると突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、弟子たちが座っていた家中に響きます。炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。神の霊が降りました。聖霊に満たされた弟子たちは、知らないはずの外国語を話し始めたと言います。

自分の考えや気持ちを言葉にしただけでは通じません。聞く相手のことを考えないと、言葉は通じない。聖霊が働けば自動的に言葉が通い合うわけではありません。聖霊の働きは、相手の心の声を聞く力を私たちに与えるものなのではないでしょうか。

パウロは言いました。「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことよって始まるのです。」(ロマ10・17)パウロは主の御言葉を聞きました。それゆえ、福音の言葉を語ることが出来たのです。

使徒言行録は「一人一人の上にとどまった」と述べています。聞く力、話す力は、信じる者たち一人一人に与えられているのです。

聞くことは、黙ることです。ただ言葉を慎むではありません。語ることを忘れるほどに相手の言葉に聞き入るのです。相手を重んじて聞くことが必要です。聖霊は私たちに、目の前にいる人を大切にすることを与えます。愛の力を与えるのです。聞くことが出来たら、語る言葉はおのずと与えられます。初めは少しずつでしょう。そして言葉を交わすうちに段々と互いの心が通い始めます。やがて言葉は理解され、理解は納得を作ります。聖霊の働きによって私たちは、互いの違いを越えて通じ合う、新しい言葉を話し始めるのです。